



<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

高き希望に（第五中学校だより）

平成30年10月31日発行

No. 9 校長 矢口 仁

自分の可能性を閉ざすな —奥村 武博さんの言葉—

校長 矢口 仁

道はじぶんでつくる 道はじぶんでひらく
人のつくったものは自分の道にはならない

相田みつを



今年のドラフト会議が終わりました。プロ野球は華やかな世界ですが、その裏で、公式戦に一度も出場できずに、戦力外通告を受ける選手が数多くいます。1997年のドラフト会議で6位指名を受けた奥村武博さん(39歳)は、二軍で1イニング投げただけで引退しました。しかし、今は公認会計士となり、スポーツ選手のキャリア形成や引退後の人生設計を応援する社団法人を立ち上げました。プロ野球出身の公認会計士は日本で初めてだそうです。

高校時代は、岐阜県大会決勝で敗れて甲子園の土は踏めませんでした。阪神のスカウトの目にとまり、指名されました。プロ入り後は、肘を痛めて手術をしたり、右肩を痛めたりとけがに苦しみ、入団4年目に戦力外通告を受けました。

商業高校時代に簿記の二級を取得したものの、どのような仕事に就くべきかわからず、バーテンダー、ホテルの調理などに従事したそうです。

その頃、後の奥様になる女性から資格のガイドブックを渡され、「世の中にはこんなにたくさんの仕事があるんだよ。」と諭され、視野が開けたと言います。高校時代の簿記と結びつけ、公認会計士への挑戦です。弁護士や医師と違い、公認会計士には受験資格制限がないのが彼にとって幸いでした。

アルバイトをしながら資格予備校に通い、簿記一級に合格。その後、民間企業に就職しながら、早朝に勉強、会社の勤務を終えてから予備校通いの生活を続け、九年間かけて見事合格しました。

「スポーツ選手は、一回失敗したら、なぜ失敗したかを真剣に考え、修正しもう一度トライし、それを繰り返すことで成長します。受験勉強も模試を受けて間違えたら復習して改善する、それを繰り返して課題を克服します。スポーツも勉強も同じだと気づいてから、勉強に取り組む姿勢や効率が劇的に変わりました。」と彼は言います。また、「私の場合は簿記でしたが、スポーツ以外の可能性の種は、アスリートの中に眠っています。自分自身が可能性を閉ざさなければ、道は必ず開けているのです。」とも言っています。

厳しいスポーツの世界で挫折を経験した奥村さんですが、自分の力で新しい人生を切り開きました。自分で自分の可能性を閉ざさなければ、道は開けていくのです。